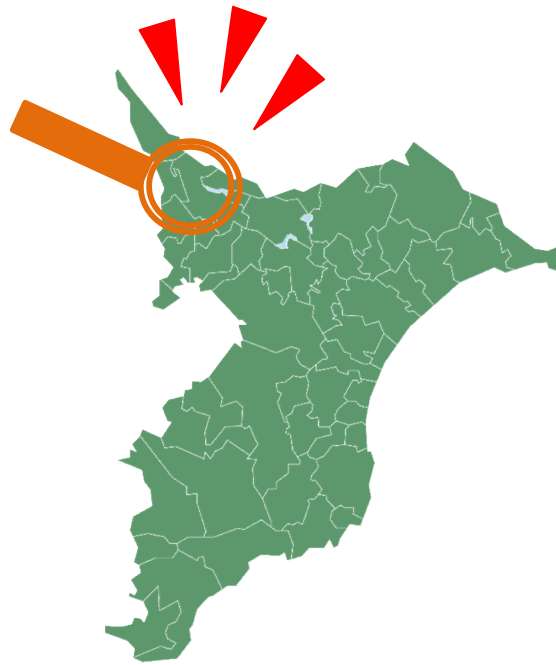


2025・1

柏の景気情報

令和7（2025）年1月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和7年1月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

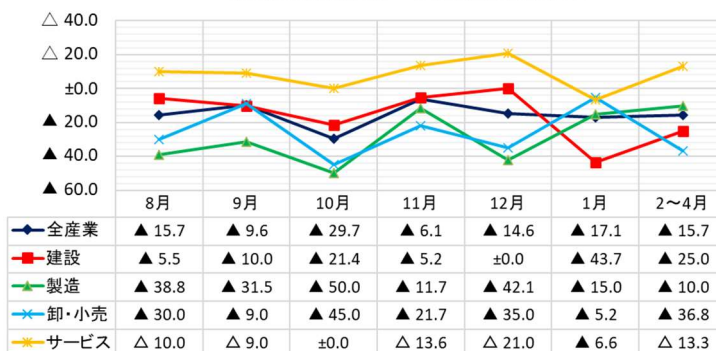
回答期間：令和7年1月20日～令和7年2月3日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数70

継続する物価上昇に加え賃上げによる人件費の増加に苦慮の声。先行きへの不安視のコメント多数。

1月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲17.1（前月水準14.6）となりマイナス幅が2.5ポイント拡大した。

各業界、賃上げによる人件費圧迫やコスト増の継続により採算ベースの悪化を辿る。製造業・卸・小売業・サービス業では継続する原材料費・販管費等の上昇に加え、賃上げによる人件費が圧迫し、売上、製品単価アップのみでは上昇した諸費用の部分が吸収しきれず厳しいとの声。建築業では、資金繰りに苦戦する一方で、DX化を取り入れ効率化を図る必要性を述べている。

柏の景気情報・産業別業況DI



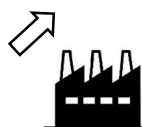
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「予定納税の支払いが、事業資金の支払いに影響を及ぼし、会社として少ない利益を圧迫する形になっている。毎回消費税は別にプールしておくべきだが、なかなかそれがうまくいかずに支払いや給料にあててしまうので、予定納税の次期は資金繰りに苦労してしまう」（とび）「賃金の約6%アップを決定したが、売上高、採算を確保するためにはエネルギー等のコスト増も予想されることから、営業活動やDX化を取り入れた効率化など、様々な努力を伴う必要がある」（地質調査）



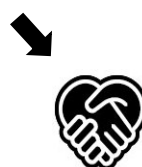
製造業

「原材料やエネルギー、仕入れ商材等のコスト増だけでなく、間接的な費用も上がってきているので、多少の売り上げ増だけでは、コストアップ分をカバー出来ない状況になっている。賃上げも毎年行っているが、来年度はかなり厳しい状況になりそう」（自動車・同附属品製造）「年度末は、ユーザーの在庫調整が出てくるので、売り上げ、利益とも減少。従業員でインフル等ウイルス感染者がでてきているので公出で補っている状況。原材料等アップやこれからの春闘でのコスト増が考えられるが、製品単価アップで吸収できないのが現状」（その他の鉄鋼）「今後賃上げと物価の上昇がじわじわ業績を悪化させる可能性がある」（一般産業用機械・装置製造）



卸・小売

「月間を通じて天候も安定し、人流・入店客などは堅調に推移。カジュアル衣料、服飾雑貨など上向き傾向。カテゴリー問わずテナントの人員不足の声多く、複数店舗兼任など増える。コスト高による出店マインド低下の声もあり、今後の不安材料」（百貨店）「コストプッシュ型インフレーションで物価上昇が続いているが、賃上げが追い付かず実質賃金は低下しているので、客数は増加してきているが、客数程売上は上がっていない。また、人件費と水道光熱費の上昇は売上増加幅で吸収できるものではないため、採算ベースでは悪化している。原価上昇分を価格に反映できない中、経費上昇が続いている。賃上げは競合との差別化でせざるを得ないので悩ましい」（大型小売店）



サービス業

「従業員募集のための費用が大きい、効果もなかなか期待できない、ジレンマを感じる。今年の4月は関西万博、7月にテーマパークジャングリアがオープンするので期待はしているものの、過去のケースでは、宿泊、交通機関の座席が取れず、苦労するのではないかとちょっと心配」（旅行）「学習塾は人件費の負担が大きいので、10月にアルバイトの時給を上げた影響が徐々に出てきていて、進学年度からの授業料にどの程度反映させるか非常に難しい判断に迫られている」（学習塾）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲17.1に対し、「CCI-LOBO」が▲15.4で、柏のほうがマイナス幅が1.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 17.1	 ▲ 43.7	 ▲ 15.0	 ▲ 5.2	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 15.4	 ▲ 10.6	 ▲ 20.7	 ▲ 19.7	 ▲ 9.4
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.4	 ▲ 50.0	 ± 0.0	 10.5	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 2.2	 ▲ 7.3	 ▲ 7.2	 ▲ 5.4	 7.4
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.8	 ▲ 43.7	 ▲ 10.0	 ▲ 21.0	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 19.4	 ▲ 16.1	 ▲ 19.7	 ▲ 23.6	 ▲ 16.4
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 70.0	 ▲ 62.5	 ▲ 70.0	 ▲ 84.2	 ▲ 60.0
CCI-LOBO	 ▲ 67.2	 ▲ 70.1	 ▲ 59.8	 ▲ 72.8	 ▲ 67.4
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.8	 25.0	 20.0	 ▲ 5.2	 13.3
CCI-LOBO	 24.3	 38.7	 13.3	 23.1	 28.2
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 8.5	 ▲ 12.5	 ▲ 15.0	 ▲ 5.2	 ± 0.0
CCI-LOBO	 ▲ 11.8	 ▲ 5.3	 ▲ 12.4	 ▲ 15.4	 ▲ 12.4

CCI-LOBO

商工会議所早期景気観測(1月速報)

調査期間：2025年1月16日～22日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、感染拡大と燃油コスト増で3か月ぶり悪化

先行きは、世界情勢への不安と消費停滞で慎重な見方

1月の全産業合計の業況DIは、▲15.4と前月比からマイナス1.0ポイント。

サービス業は、感染症の拡大により、飲食・宿泊業で伸び悩みが見られ、悪化した。小売業は、初売り需要等により百貨店では好調な一方、消費者の節約志向が根強く、ほぼ横ばいにとどまった。製造業・卸売業は、気温低下から冬物飲食料品や繊維製品の需要が増加したものの、機械器具関係が振るわず、停滞した。また、建設業は民間工事・公共工事ともに伸び悩みが見られ、足踏み状態となった。

コスト増が続く中、円安基調、政府の燃油価格激変緩和補助金の縮小等、さらなる

負担増加が続いている。度重なるコスト増に見合う価格転嫁が追いつかない中、深刻な人手不足も続いており、中小企業の業況は、3か月ぶりに悪化となった。

先行き見通しDIは、▲16.4と今月比からマイナス1.0ポイント

新年度への準備等で個人消費拡大が見込まれる一方、長引く物価高による消費マインドの低迷が懸念される。また、第2次トランプ政権の発足による世界情勢の動向を不安視する声が業種を問わず聞かれた。

旺盛なインバウンド需要が続く中、中国の春節等でのさらなる期待が見られるものの、国内消費は停滞感が底堅く、先行きは慎重な見方となっている。

【建設業】

「民間工事では、大型の工場建設の受注がある等、一部では設備投資需要が見られるものの、原材料・エネルギー価格の高騰で以前よりも収益が圧迫されている。また、公共工事は、足元で減少

していることに加え、価格競争が激化しており、価格転嫁が進まず困っている」（一般工事業）

「物価高で新築住宅の需要が低迷している。補助金活用や提案力の強化など業務体制の見直しで顧客満足度を上げ、差別化を図ってきたい」（建築工事業）

【製造業】

「深刻な人手不足の中で採用にかなり苦労している。また、採用できても若年層の離職が多く、人材育成が進まない。年間休日数を増やすなど福利厚生の拡充に努めているが、その結果として稼働日数が減少するため、従業員の生産性向上に向けて取り組みが必要がある」（自動車・付属品製造業）

「ガソリン補助金縮小により、輸送費の負担増はもちろんのこと、生産コスト全てが上昇しており、苦しい状況にある」（プラスチックシート製造業）

【卸売業】

「円安基調の中、仕入価格や輸送費、エネルギー価格な

ど様々なコスト増に対して、価格転嫁が追いついていない。また、消費者の節約志向が根強いため、一度価格の上がった商品は需要が少なくなり、価格の安い代替品を求められる。仕入れ調整をしないと収益の確保が難しい」（食料・飲料卸売業）

「従業員の高齢化・慢性的な人手不足が続いているが、人材確保は難しいため、システム導入等で生産性向上を図っている」（一般機械器具卸売業）

【小売業】

「輸送費の上昇、配送会社の人手不足で納品遅延が発生している。これまではカテゴリー別に納品を分けてもらっていたが、混載での配送を許容することで安定した納品がされ始めている。しかし、仕分けを自社で行わないといけないため、その分の労務費が上昇してしまっている」（総合スーパー）

「価格転嫁を進めているが、顧客への説明・社内システムの改修等、事務手続きが煩雑で、本業以外に時間を割かれてしまっている」（事務用品小売業）

【サービス業】

「インフルエンザ等の感染

症がまん延したことで、宴会数が増え、飲食業の元金返済猶予をせざるを得なくなってしまう」（飲食店）

「大型案件の受注に成功し、これに伴って設備投資・人材確保が必要のため、金融機関へ相談し、無事に資金調達ができた。コスト増で経営は依然として苦しいものの、新規事業の立ち上げも控えており、これらの展望に期待している」（ソフトウェア業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

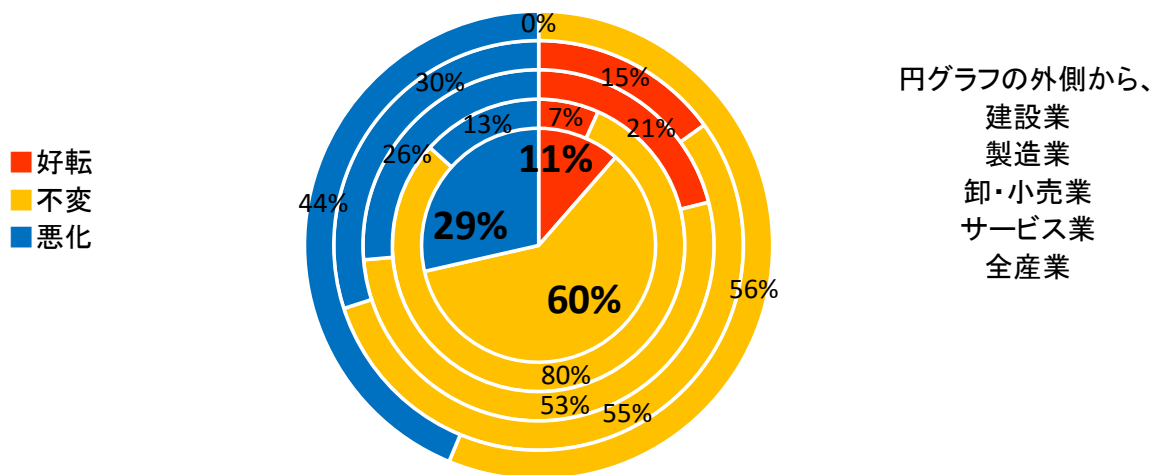
	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲15.4	▲11.6	▲24.4	▲19.9	▲18.4	▲5.2
9月	▲14.1	▲8.4	▲23.4	▲16.1	▲18.7	▲4.3
10月	▲17.2	▲11.8	▲22.0	▲26.1	▲24.1	▲6.9
11月	▲16.3	▲12.6	▲20.4	▲19.0	▲23.2	▲8.5
12月	▲14.4	▲11.3	▲21.4	▲17.5	▲20.2	▲3.4
1月	▲15.4	▲10.6	▲20.7	▲17.2	▲19.7	▲9.4
見通し	▲16.4	▲10.6	▲19.1	▲26.6	▲17.7	▲12.2

令和7年（2025年）1月の動向

【業況について】

- 1月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲17.1（前月水準▲14.6）となり、マイナス幅が2.5ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（2月から4月）の先行き見通しについては、全産業では、▲15.7（前月水準△1.3）となり、マイナス幅が17.0ポイント拡大した。

前年同月と比較した今月の業況について

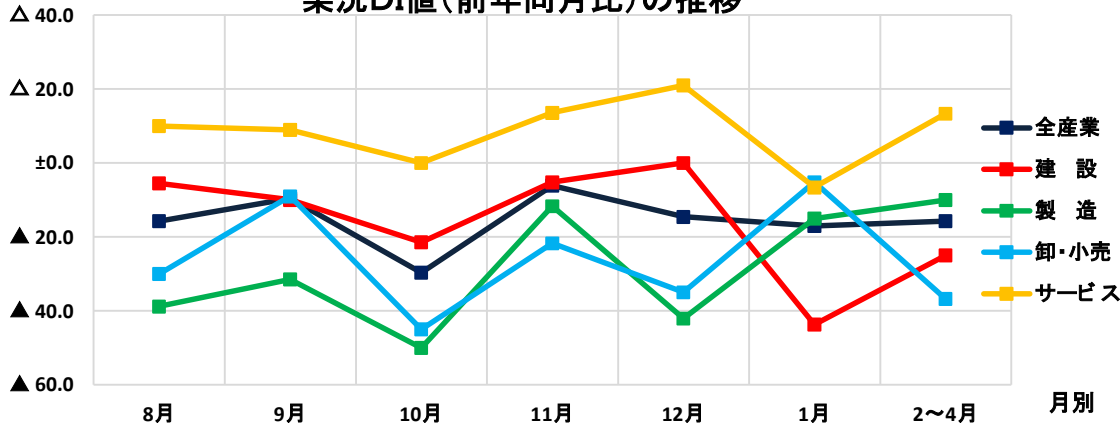


業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

	令和6年					令和7年	先行き見通し
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2～4月 (1～3月)
全産業	▲15.7	▲9.6	▲29.7	▲6.1	▲14.6	▲17.1	▲15.7 (△1.3)
建設	▲5.5	▲10.0	▲21.4	▲5.2	±0.0	▲43.7	▲25.0 (▲11.7)
製造	▲38.8	▲31.5	▲50.0	▲11.7	▲42.1	▲15.0	▲10.0 (△10.5)
卸・小売	▲30.0	▲9.0	▲45.0	▲21.7	▲35.0	▲5.2	▲36.8 (▲25.0)
サービス	△10.0	△9.0	±0.0	△13.6	△21.0	▲6.6	△13.3 (△31.5)

DI値

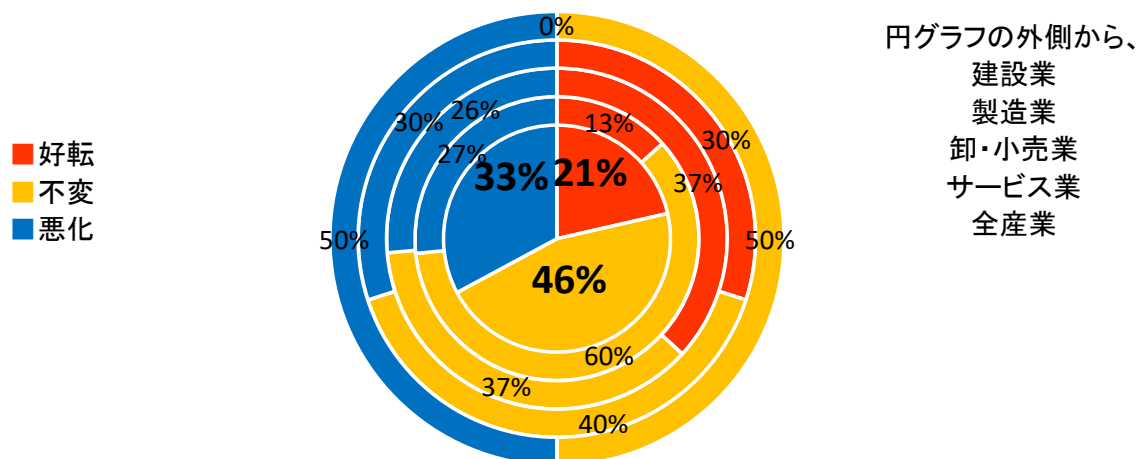
業況DI値(前年同月比)の推移



【売上について】

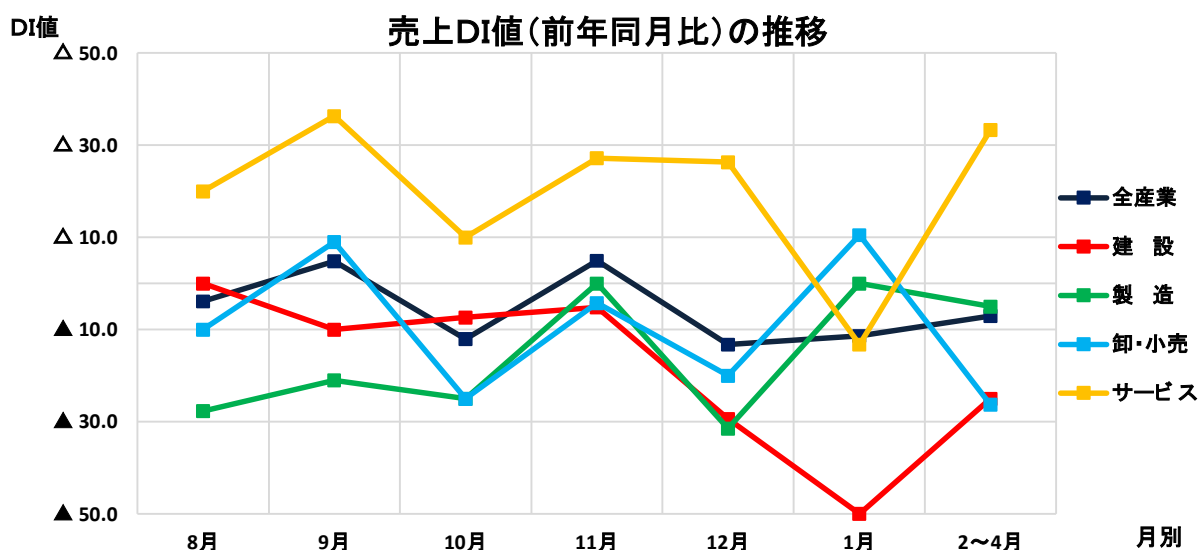
- 1月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.4 (前月水準▲13.3)となり、マイナス幅1.9ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.1 (前月水準△12.0)となり、マイナス幅が19.1ポイント拡大した。

前年同月と比較した今月の売上について



売上D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

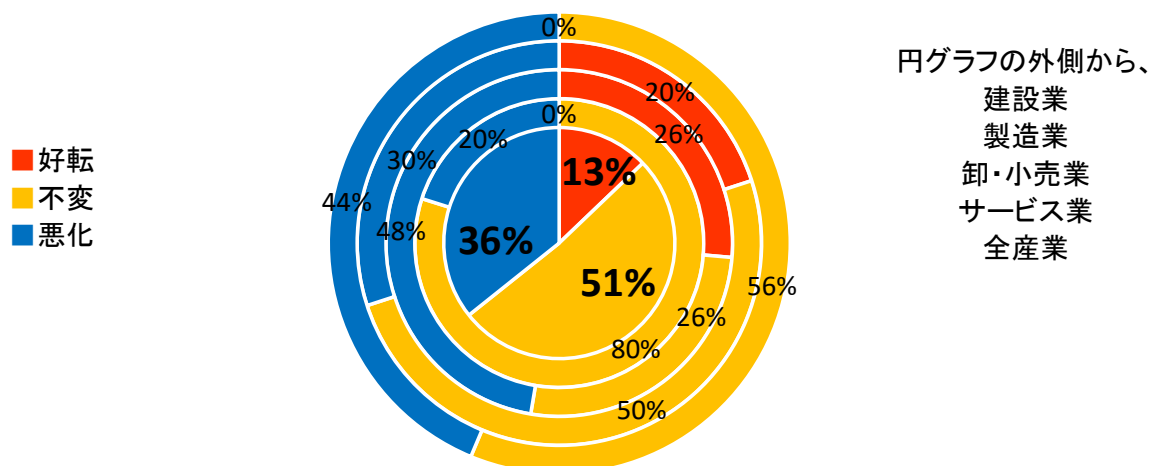
	令和6年					令和7年	先行き見通し
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2~4月 (1~3月)
全産業	▲3.9	△4.8	▲12.1	△4.9	▲13.3	▲11.4	▲7.1 (△12.0)
建設	±0.0	▲10.0	▲7.4	▲5.2	▲29.4	▲50.0	▲25.0 (▲11.7)
製造	▲27.7	▲21.0	▲25.0	±0.0	▲31.5	±0.0	▲5.0 (△5.2)
卸・小売	▲10.0	△9.0	▲25.0	▲4.3	▲20.0	△10.5	▲26.3 (△10.0)
サービス	△20.0	△36.3	△10.0	△27.2	△26.3	▲13.3	△33.3 (△42.1)



【採算について】

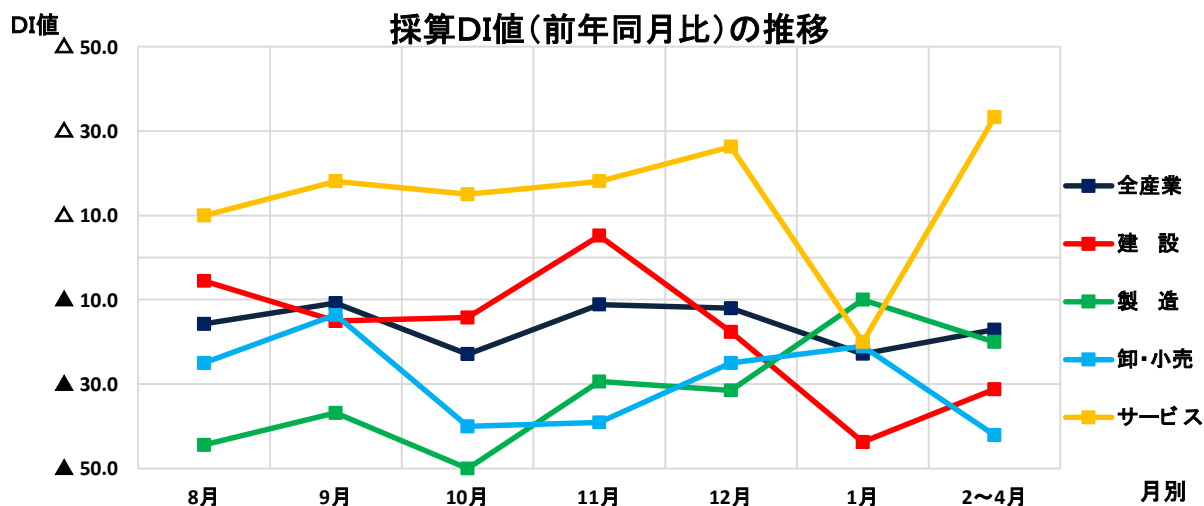
- 1月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.8(前月水準▲12.0)となり、マイナス幅が10.8ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.1(前月水準△6.6)であり、マイナス幅が23.7ポイント拡大する見通しである。

前年同月と比較した今月の採算について



採算D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

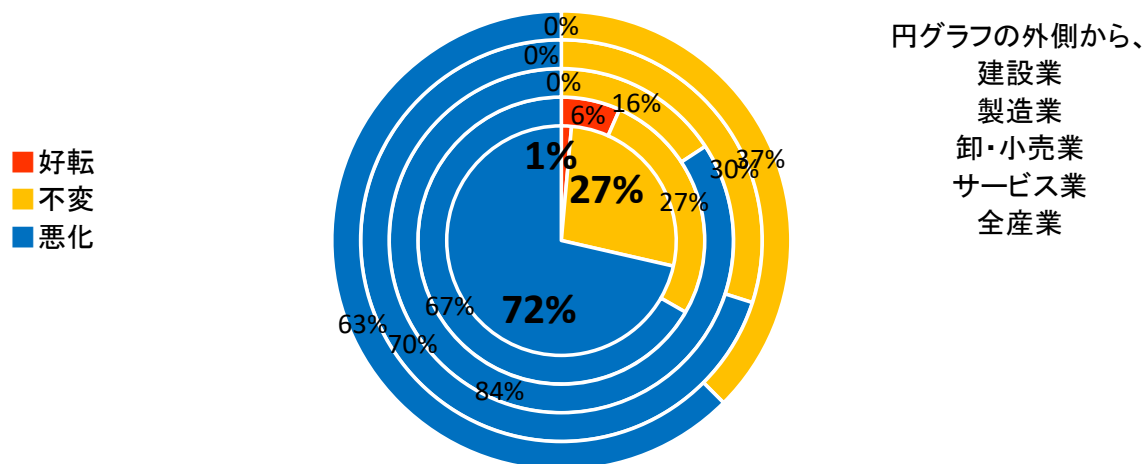
	令和6年					令和7年	先行き見通し
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2~4月 (1~3月)
全産業	▲15.7	▲10.8	▲22.9	▲11.1	▲12.0	▲22.8	▲17.1 (△6.6)
建設	▲5.5	▲15.0	▲14.2	△5.2	▲17.6	▲43.7	▲31.2 (▲11.7)
製造	▲44.4	▲36.8	▲50.0	▲29.4	▲31.5	▲10.0	▲20.0 (△5.2)
卸・小売	▲25.0	▲13.6	▲40.0	▲39.1	▲25.0	▲21.0	▲42.1 (▲5.0)
サービス	△10.0	△18.1	△15.0	△18.1	△26.3	▲20.0	△33.3 (△36.8)



【仕入単価について】

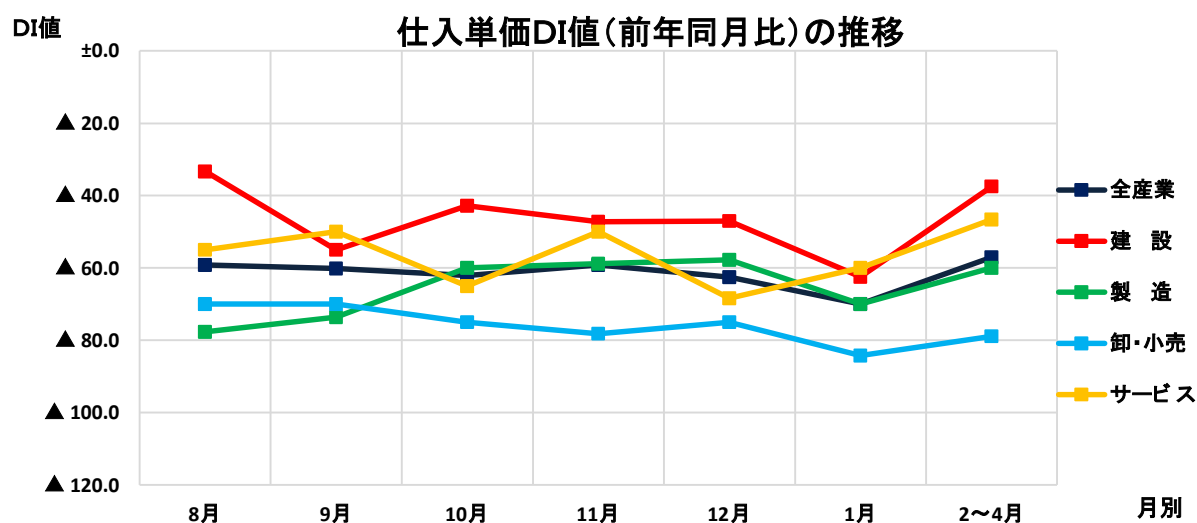
- 1月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲70.0 (前月水準▲62.6) となり、マイナス幅が7.4ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲57.1 (前月水準▲52.0) となり、マイナス幅が5.1ポイント拡大する見通しである。

前年同月と比較した今月の仕入単価について



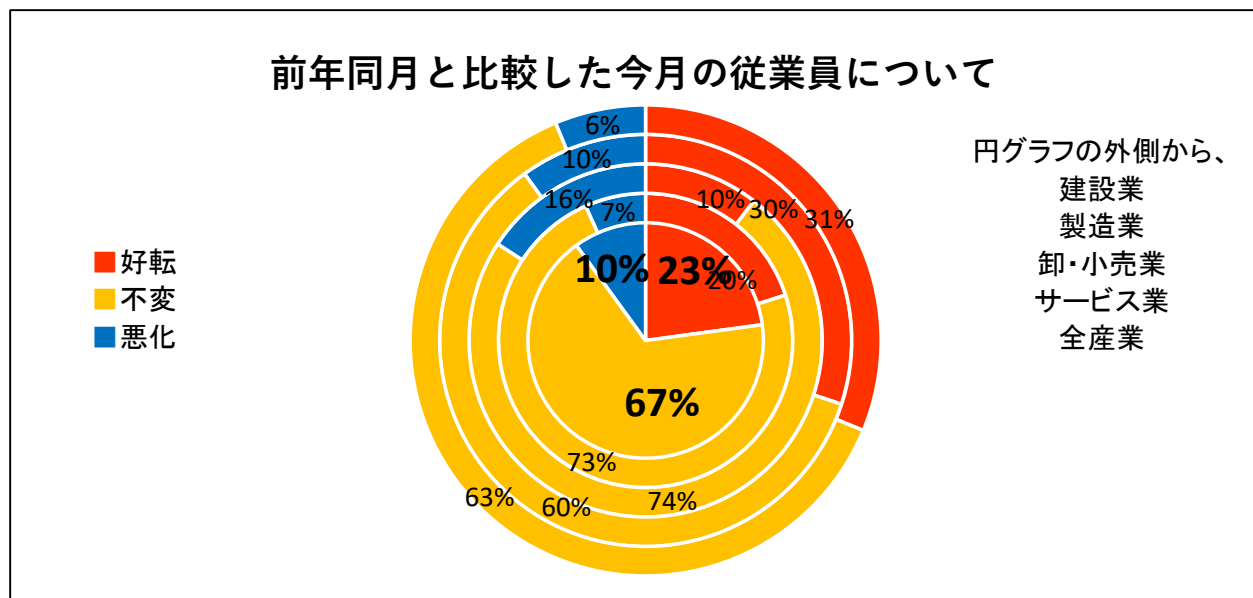
仕入単価D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「下落」の回答割合ー「上昇」の回答割合

	令和6年					令和7年	先行き見通し
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2~4月 (1~3月)
全産業	▲59.2	▲60.2	▲62.1	▲59.2	▲62.6	▲70.0	▲57.1 (▲52.0)
建設	▲33.3	▲55.0	▲42.8	▲47.3	▲47.0	▲62.5	▲37.5 (▲47.0)
製造	▲77.7	▲73.6	▲60.0	▲58.8	▲57.8	▲70.0	▲60.0 (▲47.3)
卸・小売	▲70.0	▲70.0	▲75.0	▲78.2	▲75.0	▲84.2	▲78.9 (▲65.0)
サービス	▲55.0	▲50.0	▲65.0	▲50.0	▲68.4	▲60.0	▲46.6 (▲47.3)



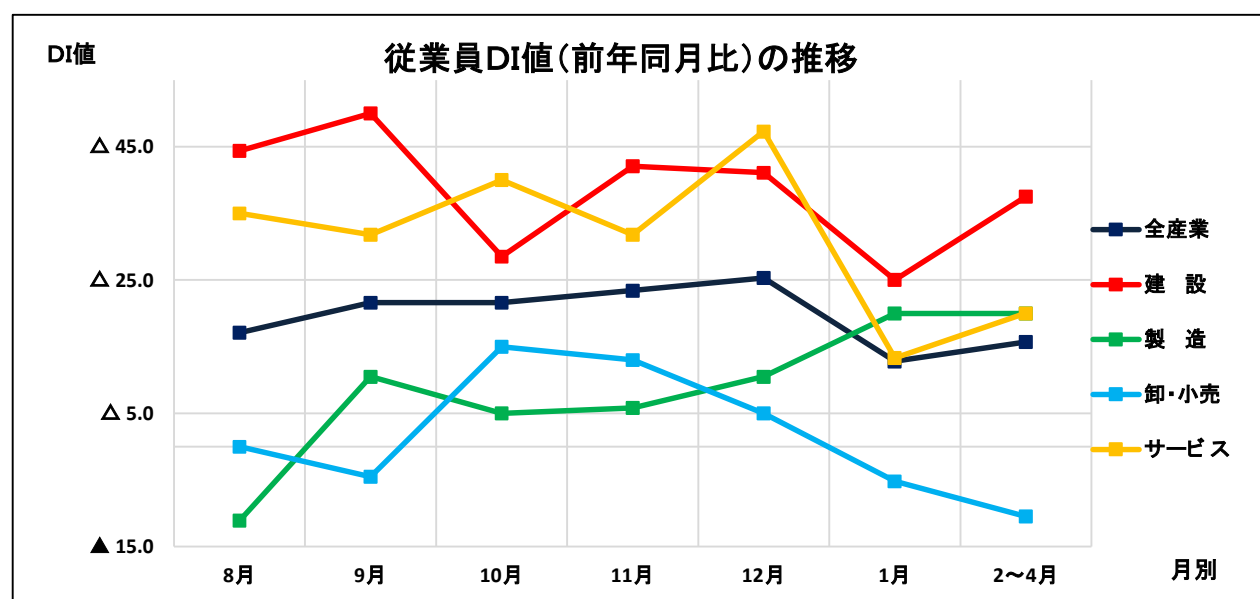
【従業員について】

- 1月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△12.8(前月水準△25.3)となり、プラス幅が12.5ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、△15.7(前月水準△33.3)となり、プラス幅が17.6ポイント縮小する見通しである。



従業員D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

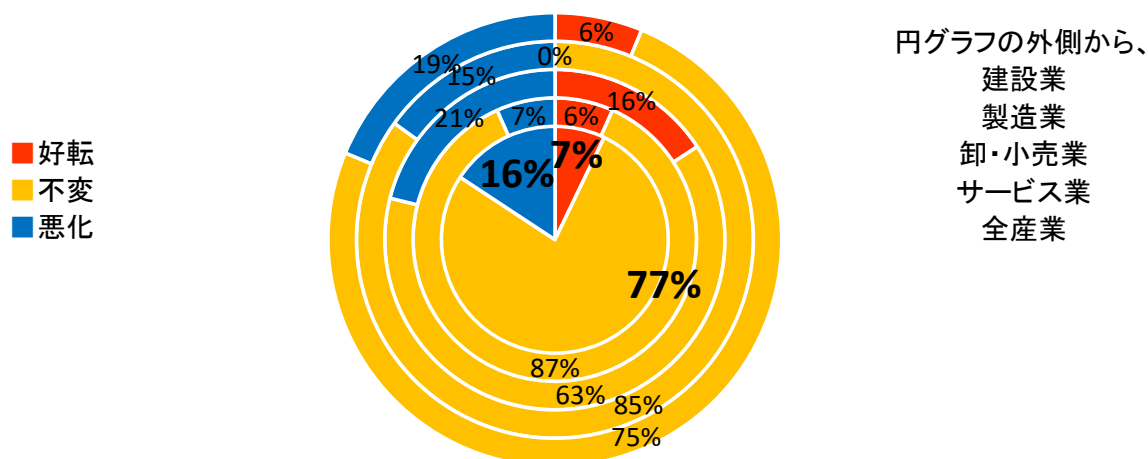
	令和6年 8月	9月	10月	11月	12月	令和7年 1月	先行き見通し 2~4月 (1~3月)
全産業	△17.1	△21.6	△21.6	△23.4	△25.3	△12.8	△15.7 (△33.3)
建設	△44.4	△50.0	△28.5	△42.1	△41.1	△25.0	△37.5 (△47.0)
製造	▲11.1	△10.5	△5.0	△5.8	△10.5	△20.0	△20.0 (△26.3)
卸・小売	±0.0	▲4.5	△15.0	△13.0	△5.0	▲5.2	▲10.5 (△10.0)
サービス	△35.0	△31.8	△40.0	△31.8	△47.3	△13.3	△20.0 (△52.6)



【資金繰りについて】

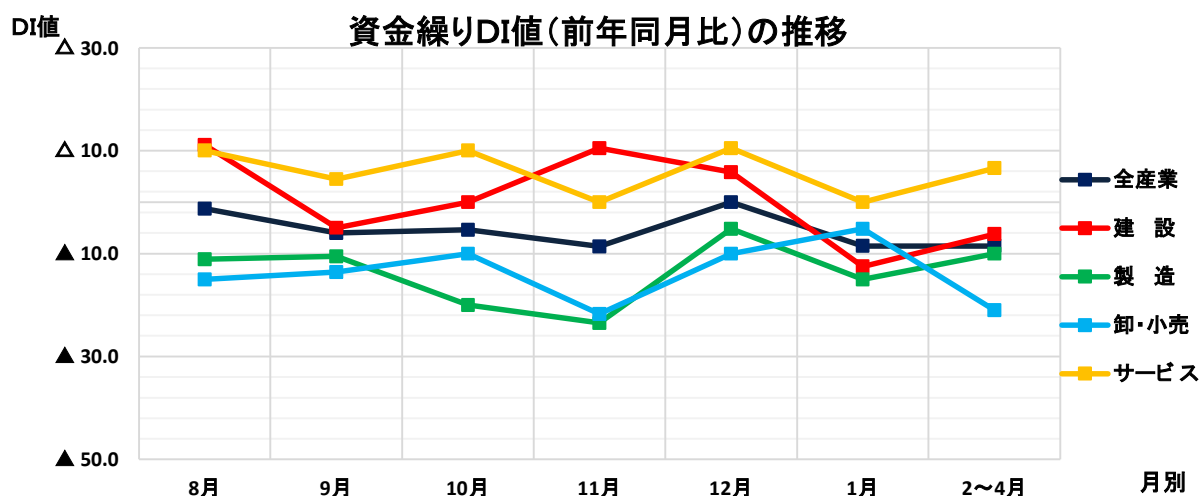
- 1月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲ 8.5 (前月水準△ 0.0) となり、マイナス幅が8.5ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲ 8.5 (前月水準▲ 2.6) となり、マイナス幅が5.9ポイント拡大する見通しである。

前年同月と比較した今月の資金繰りについて



資金繰りD I 値 (前年同月比) の推移 ※DI = 「好転」の回答割合 - 「悪化」の回答割合

	令和 6 年					令和 7 年	先行き見通し
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2~4月 (1~3月)
全産業	▲ 1.3	▲ 6.0	▲ 5.4	▲ 8.6	± 0.0	▲ 8.5	▲ 8.5 (▲ 2.6)
建 設	△ 11.1	▲ 5.0	± 0.0	△ 10.5	△ 5.8	▲ 12.5	▲ 6.2 (▲ 11.7)
製 造	▲ 11.1	▲ 10.5	▲ 20.0	▲ 23.5	▲ 5.2	▲ 15.0	▲ 10.0 (▲ 10.5)
卸・小売	▲ 15.0	▲ 13.6	▲ 10.0	▲ 21.7	▲ 10.0	▲ 5.2	▲ 21.0 (▲ 5.0)
サービ ス	△ 10.0	△ 4.5	△ 10.0	± 0.0	△ 10.5	± 0.0	△ 6.6 (△ 15.7)

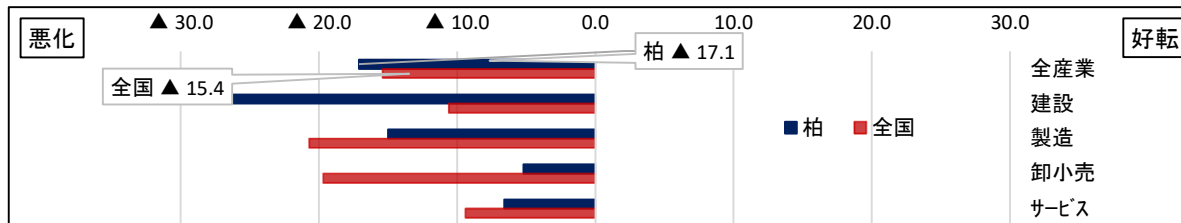


全国（CCI - LOBO）との比較

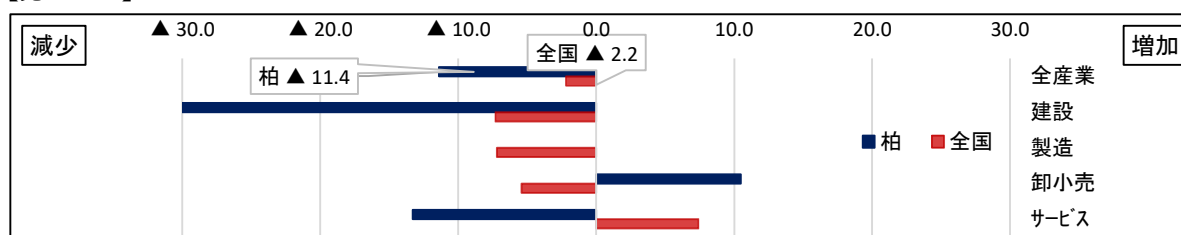
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の 景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

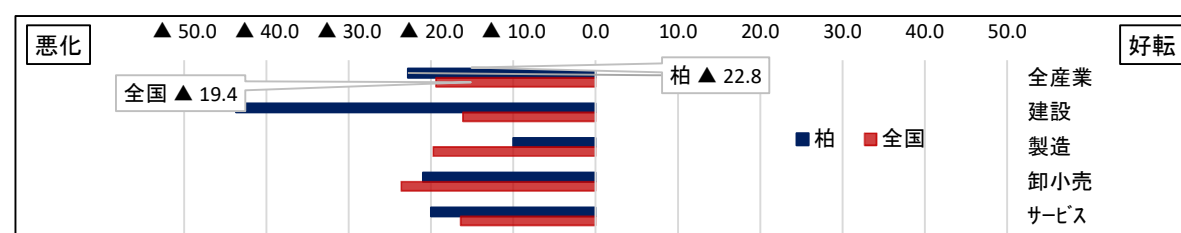
【業況DI】



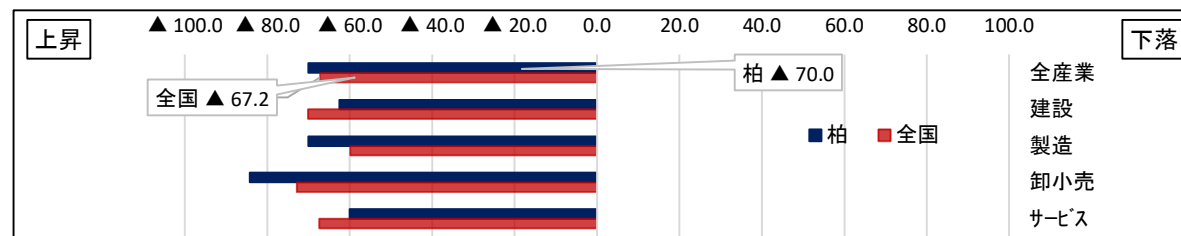
【売上DI】



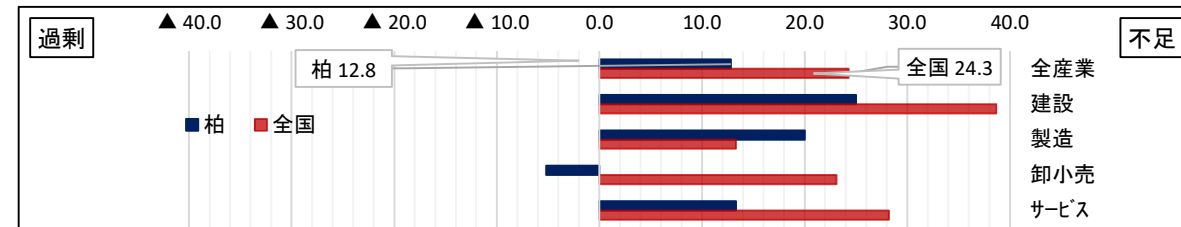
【採算DI】



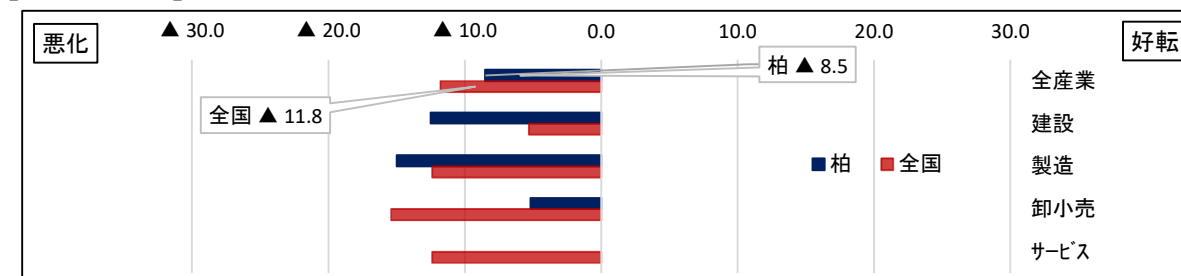
【仕入単価DI】



【従業員DI】



【資金繰りDI】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	賃金の約6%アップを決定したが、売上高、採算を確保するためにはエネルギー等のコスト増も予想されることから、営業活動やDX化を取り入れた効率化など、様々な努力を伴う必要がある。	地質調査・地質コンサルタント
	予定納税の支払いが、事業資金の支払いに影響を及ぼし、会社としての少ない利益を圧迫する形となっている 毎回消費税は別にプールしておくべきだが なかなかそれがうまくいかずに支払いや給料にあててしまうので、予定納税の次期は資金繰りに苦労してしまう	とび
	1月は畳受注が例年少ないのですが、畳ヘリ販売は好調	畳工事請負・畳製造販売業
製造業	相変わらず化粧品容器の受注に回復傾向が見られない。医療品容器もここにきて勢いを失った。	プラスチック加工
	特筆すべきことはないが、業界というよりは日本全体が冷え込んでいる状況に感じます。	その他の機械・同部品製造業
	・新製品の販売により国内での売上数量は増加。 ・3月末の年度替わりを控えて、転職による離職者が発生しはじめている。 ・退職等に伴う欠員については随時補充採用ができています。	酒類製造業
	昨今、印刷物での小ロットのニーズはとても増えています。デジタル印刷を活用した小ロットでつくる方法を提案していきたい。	印刷業
	原材料やエネルギー、仕入れ商材等のコスト増だけでなく、間接的な費用も上がってきているので、多少の売り上げ増では、コストアップ分をカバー出来ない状況になっている。賃上げも毎年行っているが、来年度はかなり厳しい状況になりそう。	自動車・同附属品製造業
	年度末は、ユーザーの在庫調整が出てくるので、売り上げ、利益とも減少。従業員でインフル等ウィルス感染者が出てきているので公出で補っている状況。 原材料等アップやこれからの春闘でのコスト増が考えられるが、製品単価アップで吸収出来ないのが現状	その他の鉄鋼業
	引続き世代交代に向けた採用に注力。	金属製品
	今後賃金の上昇と物価の上昇がじわじわ業績を悪化させる可能性がある。	一般産業用機械・装置製造業
卸・小売業	コストプッシュ型インフレーションで物価上昇が続いているが、賃上げが追い付かず実質賃金は低下しているので、客数は増加しているが、客数程売上は上がっていない。 また、人件費と水光熱費の上昇は売上増加幅で吸収できるものではないため、採算ベースでは悪化している。 原価上昇分を価格に反映できない中、経費上昇が続いている。賃上げは競合との差別化でせざるを得ないので悩ましい。	大型小売店
	今年に入り原材料の相次ぐ値上げがあり今後も高騰が続き厳しい状況。	洋菓子店
	*悪いなりに前年比ではトントン。向こう3ヶ月間は微妙だが春の消費者側の昇給が気になる。	その他の各種商品小売業

【業種別】 業界内トピックス

	月間を通じて天候も安定し、人流・入店客などは堅調に推移。カジュアル衣料、服飾雑貨など上向き傾向。カテゴリーを問わずテナントの人員不足の声多く、複数店舗兼任など増える。コスト高により出店マインド低下の声もあり、今後の不安材料。	百貨店
サービス業	インフレに強い資産への移動を心掛けている昨今です。	不動産賃貸・管理業
	そごうを解体しても西口再開発は高島屋の不参加で縮小・・・そのちぐはぐさを指摘出来る人がいない事に柏の将来の暗雲が見えます。	不動産賃貸業
	従業員募集のための費用が大きい、効果もなかなか期待できない、ジレンマを感じる。 今年は、4月に関西万博 7月に沖縄テーマパークジャングリアがオープンするので期待はしているものの、過去のケースでは、宿泊、交通機関の座席が取れず、苦勞するのではないかと。ちょっと心配	旅行
	学習塾は人件費の負担が大きいと、10月にアルバイトの時給を上げた影響が徐々に出てきていて、新学年度からの授業料にどの程度反映させるか非常に難しい判断に迫られている。賃金を上げたことに対する補助などがあるのであれば教えてほしい。	学習塾

調査要領

回答期間

令和7年1月20日 ～ 令和7年2月3日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	70	40.5%
建設	38	16	42.1%
製造	44	20	45.5%
卸・小売	46	19	41.3%
サービス	45	15	33.3%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

DI = （増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調 	好調 	まあまあ 	不振 	極めて不振 